



大歩危 結晶片岩が吉野川の流に水蝕されてできた峡谷。春は桜、秋は一面の紅葉に彩られる。平成26年3月、国の天然記念物に指定。平成27年10月、国の名勝にも指定された

## 雄大な自然と独特の文化を誇る大歩危

三大河川シンポジウムに連動して、8月27日(土)・28日(日)、「吉野川現地案内ツアー」を実施。利根川、筑後川、吉野川から延べ47人が参加しました。

まず、シンポジウムの基調講演で詳しく



「この人(こゝ)地元出身なんですか? 地元の人が立派に作って、すごいですね」妖怪・児啼爺と2ショット



深く切れ込んだV字の峡谷をのぞきこむ。まるで大理石の彫刻がそそりたっているかのよう



なんだかパドルの操作がうまいと思ったら、筑後川流域連携倶楽部の皆さんでした。「筑後川では竹筏のレースをしてるんですよ。遊びにきてくださいね」

レクチャーを受けた大歩危へ。大歩危は国の名勝に指定された峡谷美、日本有数の激流を下るラフティング、児啼爺をはじめとする妖怪伝説など、いろいろな魅力のあるエリアです。

「道の駅大歩危 妖怪屋敷と石の博物館」で地元の妖怪伝説にふれた後、川辺へ降りてみました。

平成29年10月には大歩危でラフティング世界選手権が開かれます。その魅力にふれてみようかと、皆さんでラフトボートを体験することに。ラフティングとは違って、流れの穏やかな場所でのボート遊びなので着替えも予約も不要。小さな子どもやワンちゃん(ー)まで体験できるとあって人気急上昇だとか。エメラルドに輝く吉野川をゆったりりのんびり進みます。パドルの扱いに慣れてきた頃、ちよつとだけ流れのある場所を下ってみました。ボートが揺れてお尻が濡れてしまった人もいましたが、「川風が気持ちいい!」「上から見るのと景色が違う!」「岩がすごいね」と皆さん、楽しんだようでした。

## 今もなお成長を続ける樹齢千年のクスの大樹

国の特別天然記念物に指定されている東みよし町の加茂の大クスは、源平の昔から人々とともに生きてきた地域の守り神です。環境省の計測基準の高さのあたりがちょうどくびれているので巨樹ランキングでは20位ですが、天に向かってそびえ、ゆつたりと枝を広げた樹形の美しさは日本一ともいわれています。

現地に到着すると、遠くからでもわかるその大きさに参加者から感嘆の声が上がりました。大クス保存会の方にお話を聞き、その後、特別に根元に入れてもらいました。樹齢千年余の老樹にもかかわらず、今なお成長し続ける生命力にあやかるうと、幹に耳をあてて音を聞



加茂の大クス 東西52m、南北42m、高さ26m。昭和31年、国の特別天然記念物に指定。しめ縄は「大クス保存会」の皆さんの手で毎年掛け替えているとか



いてみたり、最後には人の輪をつくって大クスと記念撮影まで。巨樹の穏やかさと風格に癒され、清々しい気分で見学地へ向かいます。

## 整備が進む中流の河川敷

イベント広場、運動公園、じゃぶじゃぶ池などを備えた「水辺の楽校 ぶぶるパークみかも」は、水辺で遊ぶ・学ぶ・作る体験を通して自然や人とふれあえる場所です。随所に繁る竹林はかつての防水林です。暴れ川・四国三郎に堤防を築くことが技術的にも経済的にも困難だった時代、中・上流域の人々は水辺に竹を植えて「緑の堤防」を築いたのです。ダムができ、堤防の設置が進んだことで、竹林はその役目を終えつつあります。今後は産業やレジャーに有効利用する方法を...と、シンポジウムで美馬未来塾の千葉さんが話しておられましたね。その後、場所を移して、工事が進む加茂第二堤防を見学し、吉野川の堤防設置状況などについて説明を受けました。



吉野川の豊かな自然や文化にふれ、水防の歴史を学び、とても充実したツアーとなりました。



ぶぶるパークみかもにある西庄水防林記念碑